

金属部会長便り(2024年2月号)2024年 2月1日発行(第31号) 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

部会長便り第31号

1 直近の活動

- 1月7日(日) 幹事会 (2024年1月)
- 1月11日(木) 技術士会新年会、賀詞交換会2024
- 1月21日(日) 「企業内技術士勉強会 (11回目)」
- 1月21日(日)金属部会執行役リアル会
- 1月27日(土) 吉武記念講演会・65周年記念大会

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 2月4日(日) 幹事会 (2024年2月)
- 2月11日(日)金属部会CPD技術セミナー11 「技術者倫理」
- 2月17日(土)YES-Metals!
- 2月18日(日) 「企業内技術士勉強会 (11回目)」
- 2月25日(土) 定例部会 (2月) 埼玉担当。

3 部会四方山

▶65周年記念誌が完成した。出来上がってみると148ページにもなり、厚みもビッグなら印刷代もビッグになった。でも、「大丈夫、はいてます、パンツ！」ではなく、「入ってます、貯金！」銀行に部会の貯金がきっちり増えてます。厚みも印刷代もビッグだが、行事参加者もビッグなためだ。でも、一昨年より参加者が88名増えただけで、1600人には12名とどかなかった。数を競うのは今年までにして、来年からはもう少し「笑いが取れる表彰」を目指したいと思う。表彰基準が明確でないとの指摘も一部にはあるが、基準は常に変わるもの。部会活動で頑張ってくれた人に光を当てたいとの思いは変わらない。▶冊子は、オンラインでダウンロードできるようにしている。まだ、参加者特典の時期なので、津々浦々に解放できるのは、そうですね、部会長会議で他部会に配り、地域本部や関東支部に行き渡ったところで解放するので、今しばらくお待ちください。2月中旬です。どうしても、この瞬間欲しい人は、お便り箱に投書ください。▶この冊子は、「入念に討議を重ね、執筆者を厳選し、フォーマットを決め、推敲に推敲を重ねてできた・・・」訳では全然なく、「とりあえず、走り出して、それから考えよう」スタイルでできた、どちらかといえば、体育会系のノリで作られた。「ごちゃごちゃ考える暇があるんやったら、原稿集めよう、資料書こうぜ」というわけだ。走り出すと、表紙のデザインを申し出る奇抜な人が現れたり、「地域本部から」のように自らのコーナーに、自らフォーマットを揃えて「白浪五人男」のようにビシッと揃い踏みしたり、事務局の若手たちがかなりの労力を割いて5年間の金属部会の行事を洗い出してくれたり、それを一覧にまとめる猛者がすごい。絶対に小生なら真似できないことをしてくれた。そして校正の鬼軍曹たちが「技術コーナー」の論文をびしびし鍛えて、フォーマットまで揃えたり、いろんなことを、

関係者が自ら行ってくれた。全国の部会員のノリも最高だった。「100文字お便り」を募るとあっという間に30人から返信があり、「論文打診」では予想を上回る参加率だった。圧巻だったのは「顧問からの一言」コーナー。自ら世話役を申し出ていただいた先輩が、きっちり期限内に揃えて提出。その内容が、各々の顧問の思いと工夫がこもり、読んでいて面白い。▶この冊子は、すべての部会員の協力がなければできなかった。6月に言い出して、7月にキックオフ行い、10月はじめにはほぼ完成していた。部会長の提案を実際に実行してくれる幹事もすごいし、それを見守る顧問もさすが、そして全国に散らばったノリの良い皆さんのおかげだ。でも、一つだけ言わせていただければ、正直、いいだす時、不安で仕方なかった。皆が賛同してくれるだろうか、負荷になることを、さらに増やすだけではないのか。セミナーや定例や全国大会や合同や見学会や勉強会やら、試験問題見直しやらで数十回拘束した上、さらにこの冊子なんて不可能ではないかと弱気になっていた。しかし、それを救ってくれたのは金属部会執行部のメンバで、「いいんじゃないですか」「やりましょう」と賛同してくれたことだ。中でも、執行部に有識者で入ってくれている元理事や元部会長も「やろうぜ」と言ってくれ、踏ん切りがついた。あの後押しがなければ、この冊子は存在しなかった。忙しいからといってやらなくても、忙しいがやっても一年は同じように過ぎていく。しかし、一年後には冊子が存在するかしないかが分かれる。こういう貴重な経験を積まさせてもらった。来年？さあ、それは来年のお楽しみに。でもこのまま終わるようなら金属部会の活動ではない。また一年後、部会長便りで報告する。「この冊子はゴールではない」、という一言だけは伝えておきます。ちゃんちゃん。

4 和鐵管見 29

▶これまで、いい加減、ドタバタ人生を歩んできたが、2024年1月は、和鐵史上、最も激動の月だったと言えるかもしれない。まず、最初に、映画の話からすると、1月の封切りは1本だけ。「ゴジラ-1.0/C」これはすごかった。何がすごいかといえば、白黒映画なのだ。色がなくなることで印象がガラリと変わり、恐怖感は5割増し、1回目で見えなかったディテールが鮮やかに目に飛び込んでくる。情報は少ない方が伝わりやすい、というのは伝達の王道だが、映画館で体験するとは思わなかった。▶この映画は、神奈川県海老名のイオンシネマで見た。和鐵は、この地で今月10日から、フルタイムの企業内技術士になった。月金で朝から夜までびっしり現場で働いている。もちろん作業をしている訳ではない。しかし、歩き回り、観察し、背丈よりも高い鋳物や船のような構造物が、真っ赤に焼けて炉から登場し、それを水槽にジャブんと浸漬するのを目を輝かせて観察している。やっぱり現場はいい。技術指導や顧問も面白かったが、現場で若い担当と侃侃諤諤と議論し、熱電対を引っこ抜いて観察するのは最高だ。▶一月の初めはマレーシアに住んでいた。12月の役員会が終わったその足で、ベトナム経由でクアラルンプールに行き、コンドミニウムの19階に住み着いた。と言っても2週間しかいなかったが。暖かいここで執筆三昧だった。次に出す「脱炭素社会」は脱稿した。2月の出版に向けて出版社が動いている。さらに「技術者倫理のジツム」もノリノリで執筆した。誰も知り合いがない場所で、会議も提出書類にも煩わされず電話もかかってこず、テレビも映らない場所で最高だった。まあ小生が暖かいところにいるのを聞きつけて年末にやってきて付き合ったことと、あまりにもどこにも行かないので、ちょっとまずいかと思い直し、電車を乗り継いで

ヒンズー教の寺院に遊びに行ったことぐらいで、あとは執筆。これもまた性に合っている。で、9日に帰国して10日から着のみ着のみで出社して（まあ、背広だけは自宅にとりに行ったが）そのまま、会社の用意していた部屋ですっと過ごしていた。▶着のみ着のみとは、上はTシャツを3枚重ね着し、ズボンの下は、短パンが3枚。海外に格安航空で行くには、飛行機持ち込み荷物の重量が5キロ以内なので衣類はすべて着用して着膨れ状態で飛行機に乗る。5キロといえば、パソコンとモニターとケーブルとレンタルWIFIでギリギリ。歯磨きも髭剃りも何も持たないでいくことになる。数千円払えばいいだけなのだが無駄な出費が嫌いな性格では仕方ない。▶マレーシアでは、移住して仕事をしている技術士と連絡が取れた。年中暖かいところで、その人も雑誌原稿と執筆だけで暮らしている。それを知った時、一瞬だけだが「こんな生活もあるのか」と現場復帰を後悔仕掛けた。よく考えるとコロナでWEB化が進み、どこに住んでいるのかはあまり関係なくなった。実際、年初の金属部会の二十数人集まった幹事会はWEBで違和感なく行えた。今回はここまで。

部会長便り第32号

1 直近の活動

- 2月4日(日) 幹事会 (2024年2月)
- 2月11日(日)金属部会CPD技術セミナー11「技術者倫理」
- 2月17日(土)YES-Metals!
- 2月18日(日)「企業内技術士勉強会(11回目)」
- 2月25日(土) 定例部会(2月) 埼玉担当。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 3月3日(日) 幹事会
- 3月16日(土) YES-Metals!
- 3月17日(日)「企業内技術士勉強会」(第13回目)思考実験2、講義「説明責任」
- 3月20日(火) 顧問会議(顧問+執行役)
- 3月23日(土) 早春見学会「貨幣博物館(貨幣の歴史金属学)その他」
- 3月24日(日) 金属部会定例部会(3月分)
- 3月28日(木) APECIツヅニア審査委員会
- 3月28日(木) 四部会連絡会

3 部会四方山

▶2月は逃げるとはよく言ったもので、あっというまに2月がすぎた。部会活動も、いよいよ今年行事にアクセルがかかりはじめた。▶ところで、65周年記念誌のオンライン配布を始める。みなさんお手数ですが、ここからダウンロードしてほしい。

<https://xgf.nu/eHe5o>

PW: metals65

2024年5月30日期限

5月30日まではダウンロードできる。ダウンロードしたら、できればここから感想をお願いしたい。関係者が総力を挙げてつくりあげた力作である。

<https://forms.office.com/r/zk0CrLcJeM>

▶先日部会長会議があった。これまで、部会長会議は、事務局の話を一方向的に聞くばかりであったが、最近では「モノ言う部会」を皆が心がけている。いろいろな不思議な規制はできるだけ取り払っていくことを申し合わせている。ものいうだけでなく、実行も伴う部会になりたい。▶金属部会で気になっていることがある。それは、参加人数を増やすためにzoomを使って活動しているが、zoom参加があまりにも便利なために、リアル会合が激減してしまったことだ。今年は、地域本部や関東支部からの定例部会発信をとおして、リアルにあつまる機会を増やしたい。ところが、それでは関東地区のコロナ前までのリアルに集まって行っていた金属部会の会合が「皆無」になってしまった。家から出ずに定例

部会に出られ、交通費もかからず、移動時間の浪費も無くなったということかもしれない。しかし、これでは利便性に「技術士同士の出会いの機会」を売り渡したことになるのではなからうか。こういう思いに駆られ出した。▶今年は、機械振興会館から発信する定例会部会は、「ハイブリッド」で行う。まあ、元々そのつもりで設定している。そして来年はそのハイブリッドもやめ、リアルだけにしていこうと思う。リアル会合に出られない人は、2回に一度の定例会部会は参加できない「不自由」が出るかもしれない。しかし、機械振興会館での講演はできるだけPE-CPDに録画で掲載する。関東圏の皆さんは、来年の完全リアル会合に備えて今年を移行期間としてハイブリッド会議にリアルでの参加を求める。▶これはYES-Metals!も同じで、すでにオンラインからリアル会合の切り替えも部会長からの要請で検討すると言ってくれている。つまり、YES-Metals!もコロナ禍で中断してしまっていた会合を金属部会からのZOOM貸与で再開してくれた2022年1月以降のオンライン開催から、本来の「これから技術士になろうとする人との出会いを重視するYES-Metals!」のリアル会合への移行を今年中に行ってくれることを期待する。▶人間は、誰でも利便性に慣れるものであり、その利便性が損なわれると不自由と感じる。しかし、その利便性の代償も必ず存在する。部会の定例会部会のリアル会合が増すと、参加できない地域の部会員の皆さんは不自由と感じるかもしれない。しかし、会合数はこの数年で、激増した。セミナーや勉強会などのオンライン会合は続ける。決して、皆さんのCPDの機会を奪ったことにはならないと信じる。必要なら、オンラインセミナーの回数をあと2回増やして失われたCPD時間6時間作っても良い。そうしてでも、「関東圏のリアル会合に出てくる機会が失われている」実態を改善したい。地方本部や県支部所属の皆さんも定例会部会の際に集まってリアル会合を行ってほしい。リアル会合のために必要な部屋代などは部会から補助する方向で検討している。

4 和鐵管見 30 「65周年記念誌発行の趣意書」

▶コロナなんかには負けないぞ！

2018年10月、金属部会の60周年記念誌が発行された。記念誌の発行は、金属部会始めて以来、初めての一大イベントであつたらしい。数年間の準備期間を経て、実際に手元に届いた冊子はそれは立派なものだった。大感激だ。

2018年、2019年と世の中が明るくなっていった。即位の礼が挙行され、ラグビー日本代表が大活躍し、世の中いけいけどんどの上り調子だった。徳島の全国大会で阿波踊りを踊りまくり、翌年の名古屋での再会を誓ったのもこの時期だ。いよいよ来年は待望の東京オリンピックがやってくる。東京の地下鉄のポスターには「1000万人が押し寄せてくる」と浮かれまくっていた。東京はホテルの建設ラッシュだった。

その東京が、たった数ヶ月でゴーストタウンになった。羽田空港はガラガラであった。電車には人は乗っておらず、街は20時になると真っ暗になった。食堂も閉まっている。

2020年の始まりは、前年末の吉武先生のご逝去から始まった。新年会は行われず、ギリギリ2月に有志が集まり偲ぶ会を行ったが、皆が集まれる会合はそこまでだった。定例会部会の開催も2月で途切れた。世の中の雰囲気はどんどん悪くなり、とうとう4月には学校が休

校になった。東京へ通っていた勤め人は、当面出てくるなどの指示が出た。誰もがマスクをして小声で話した。金属部会はこの時期、息を引き取りかけていた。これまでのように、集まらない。連絡の方法もない。金属部会だけではない、この時期、いろんな組織が息を詰まらせていたのだ。誰もが、もう技術士会の活動などできないと思い始めていた。そんな暗い気分を吹き飛ばしてくれたのが、小林前金属部会長の明るさと行動力だった。瀕死状態の部会活動を、自腹でZOOMを契約し、オンライン開催できる準備を整えて行った。困難にあっても、絶望するのではなく、行動を起こす。行動が正解かどうかなど誰にもわからない。黙って疫病が通りすぎるのを待つのではなく、今やれることをやる姿勢は、周囲のものに勇気を与えてくれた。小林部会長のやることについていこう、そういう気にさせてくれた。危機に際し、金属部会の底力を見たような気がした。

▶始めるより続ける方が難しい！

60周年記念誌は、多大な労力をかけて作られた。一大プロジェクトが遂行された。この手の活動で誤解を招きやすいのは、「一度できたんだから、次もできるよね」である。そんなの無理だ。大勢が頑張ったのは、次回も頑張らなければ作れない。一度できたことは既得権のように思い、簡単にできると思いがちである。

では、次はいつ作るのだ。そう考えるとおのずと答えが決まってくる。今作るのだ。10年後の70周年まで待てない。ということで、65周年とした。記念誌の作り方は、ほぼルーティン化されてきた。しかし、いくら簡単であろうが知らないものは作れない。長続きさせるには、組織の中に経験者を担保し続けることが必要だろう。実際に継続するには、作るんだという部会の意思と、部会全員の協力があって初めてできる。何もしなければ存在しなかったこの冊子が存在し、65周年記念大会で配布されること

が吉武先生をはじめとする部会先輩が守ってこられた金属部会がコロナに負けなかった証になる。こう考えてやってきた。本当にそう思ってやってきた。65周年記念誌発起人一同

この数年は、コロナに振り回された過渡期であった。その中で、オンライン会合も普及し、現在もその恩恵を受けている。しかし、**過渡期はあくまで過渡期であり、「金属部会」に集う私たちの目的を忘れてはいけない**と信じている。参加者が多い、参加機会が多いだけが「金属部会」の活動ではないはずだ。もちろん、コロナ以前のようにリアル一辺倒に戻ることはありえない。「金属部会」は、ZOOM時代に見事に適応した。しかしそれがあたかも正しい姿であるように錯覚しているのではなかろうか。そういう気持ちである。**現状に満足した瞬間から退化と崩壊が始まる**のではなかろうか。部会長田中。

部会長便り第33号

1 直近の活動

3月3日(日) 幹事会

3月16日(土) [YES-Metals!](#)

3月17日(日) 「企業内技術士勉強会」(第13回目)思考実験2、講義「説明責任」

3月20日(火) 顧問会議(顧問+執行役)

3月23日(土) 早春見学会「貨幣博物館(貨幣の歴史金属学)その他」

3月24日(日) 金属部会定例部会(3月分)

3月28日(木) APECIソングニア審査委員会

3月28日(木) 四部会連絡会

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

4月7日(日) 幹事会

4月13日(土) [YES-Metals!](#)

4月14日(日) 「企業内技術士勉強会」(第14回目)メンバー講演、講義「市場責任」

4月20日(土) 中国方面面談

4月21日(日) 中部本部交流会

4月28日(日) 金属部会定例部会(4月分)

3 部会四方山

▶「3月は去る」で、あっというまに3月は終わった。部会活動もなんやら色々あって忙しい。▶部会長にとってこの時期は最も多忙を極める。通常の行事に加えて、「年間の実績を出すべし」「**委員を選任すべし」と「打つべし・打つべし・打つべし」と事務局のべし攻撃が4月まで続く。ヨレヨレになったところで、ウイークデーの真昼間の事務局会議の案内が舞い込む。まあ、事務局はウイークデーがお仕事時間なので当たり前の招集なのだが、勤め人には辛いのが実感だ。▶部会活動なら自分たちで決められるので、土曜日や日曜日に行事を集中させられるので、全く不満はない。でも、事務局との関係は本当にエネルギーを吸い取られていく。先輩諸氏は本当にこんな仕事をよくやってこられたと毎年3月になると関心している。どれくらいしんどいかというと、確定申告よりもきつい。

▶65周年記念誌のオンライン配布はまだ続いている。お手数ですが、ここからダウンロードしてほしい。

<https://xgf.nu/eHe5o>

PW: metals65

2024年5月30日期限

感想も届き始めている。関係者が総力を挙げてつくりあげた力作なので一言いただければ励みになる。

<https://forms.office.com/r/zk0CrLcJeM>

▶幹事会で和鐵が突然、「来年の定例部会の半分は東京で行い、それはリアルのみで行う」と言い出したものだから、幹事会では騒ぎになった。正直、ハイブリッドという耳障りの良い言葉でお茶を濁す時期は過ぎた。「リアルでもZOOMでもお選びください」ではどんなに近くてもZOOMを選ぶ人が大半である。それが証拠に2月はリアルゼロ、3月の部会長を入れて5人しかリアルで集まらない。「ZOOMでこんにちは」で本当に知り合ったことになるのだろうか？もちろん、3月22日に開催した銀ブラ見学会（貨幣博物館+AIビル）では、募集人員MAXまで集まり、その後の昼食会も大賑わいだった。嫌いなわけではない。多分、定例部会でリアルで集まった時の「お得感」がないためだろう。▶ハイブリッドを主張される人はCPD講演が聞けなくなるという。それなら、CPD講演はZOOMで行い、そこからはZOOMを切って、会場に参加した人だけが体験できる交流会をしてもいいかと思う。何も、真面目に毎月、委員会報告とか決まり切った行事をするのが定例部会ではないはずだ。もちろん2ヶ月に一度の地域本部や県支部開催は続けるのだから頻度問題はないだろう。どこよりも多くの委員会報告をしているはずだ。▶CPD講演が終わったら即ZOOMを切ると、クローズドで集まったメンバーでリアル会合を満喫できる。例えば、大っぴらにできない技術士試験の解説でもいい。自分が気になる技術の議論でもいい、やってみたいのは、自分が読んでためになった技術本の交換会だ。本を後生大事に書棚に入れておくだけでなく、それを他の人に譲ると本は再び役だつ。もちろん、そのためにはその本のどこか素晴らしいか口上がいる。てな感じでやりたい。▶もちろんその場には、これから技術士になりたい人も、興味ある人など技術士以外の人の参加もOKだ。だってリアル会合は会員外もOKだ。機械振興会館で開催する回は、もちろん関東地区の講師、できれば技術士以外の講師を招く。東京サロンの定例部会を使ってもらい、当然後半は持ち寄りのお菓子を食べながら……。今は和鐵の妄想かもしれないが、来年の今頃は本当にそんな開かれた部会、技術士以外の人も参加でき、会員獲得に貢献できる関東定例部会にして行きたい。

4 和鐵管見 31

▶まずは恒例の封切り映画から2つとビデオが1つ。一つ目は3月15日公開の「デューン、砂の惑星PART2」である。「砂の惑星」は和鐵にとって因縁の仕掛かり小説である。今を去ること、半世紀ほど前、前年の入試に落ちて大学浪人をしている時のことだ。再び受験勉強をしている夏。予備校が休みの日曜日は自転車で隣の市の市立図書館に朝早くから出かけて並び、自習席を確保して勉強していた。図書館はクーラーが効き、そして何よりたくさん本がある。勉強より周囲に溢れる本に囲まれている至福の時間だ。でも、物理の問題を解かねば。▶皆さんも経験あるだろうが、試験の前日に限って小説が読みたくなる。「うわあ、時間がなくなる」と焦りながら武者小路実篤やトルストイや小松左京の文庫本から目が離せない。市立図書館でも同じだった。次から次に小説を読み続け、物理の問題集が全然進まない。そしてある日、和鐵はとある本を手を取った時に、とうとうその悪習に自ら終止符を打った。何かと言えば「この本さえ読まなければ、来年の受験は合格する」という願掛けであった。その本が、まさしくフランク・ハーバートの「砂の惑星」だった。▶あれから半世紀。もう願掛け期間がとっくに終わっているが、未だに「砂の惑星」だけは読めない。大学受験合格と交換してしまった「砂の惑星を読まない」誓いは未

だに続いている。とはいうものの、内容には興味がある。誓いは「本を読まない」なので、映画はOKだ。デイヴィッド・リンチ監督の1984年も何回も見た。そしてドゥニ・ヴィルヌーヴ監督の2021年のPART1、そして今回みた3時間のPATR2だ。内容については語らないが、半世紀の願掛けの中で、小説内容は和鐵一部になってしまっている。何度も手に取りかけたこともあるが、まだ読んでいない。一生読まないかもしれないし、死期が近づいたら読むかもしれない。▶二つ目は、月末の3月29日の封切り日に海老名のイオンシネマ最終回に見に行った「オッペンハイマー」だ。これはものすごい映画だ。原爆の父であるオッペンハイマーの栄光と失脚の物語である。伊達に今年のアカデミー賞を7部門受賞したわけではない。しかし、3時間足らずの中にその物語を詰め込むには、あまりにも膨大な情報量であった。マンハッタン計画のリーダーとなった彼は原爆の初爆発をポツダム会議の直前に成功させる。あまりの強大な爆発力を目の当たりにし、それまで夢中で開発してきた原爆に倫理的な負い目を感じ始める。「ジャパン、ヒロシマ、ナガサキ」が何度も登場する。これは米国人のみた、米国人好みの映画だった。一躍科学の英雄になったオッペンハイマーは大統領と面会し、数十万人を殺戮した兵器の開発に悔悟の念を示す。しかしトルーマン大統領は、「結果の責任を君に求めるものはいない。その歴史的責任は全て私に降りかかってくる」とハンカチを取り出しオッペンハイマーに差し出す。出ていく彼にトルーマンは「あんな泣き虫をもう二度と私の前に連れてくるな」と命じる。しかし、泣いているのは大統領の方に見えた。最後のシーンも印象的だった。原爆開発に取り掛かる直前に彼が会いに行ったアインシュタインは別れ際に、「自分の成したことへの報いを受けてはじめて安らぎを得る。私は祖国を失った。君は・・・」米国人好みの映画だった。爆発シーンがアラモアナの実験の時しか出てこなかったのは救いだった。▶これ以外には、Amazonプライムで無料公開された「トップガン・マーベリック」は今月みはじめて、すでに15回は見た。ウィークデーは自宅に帰ってからみる。東京に行く時はipadmini6で見る。ついでに、35年前の「トップガン」も見るものだから、3月の夜に布団に転がってからは「トップガン漬け」である。「トップガン」は和鐵の行動パターンに大いに影響してきた。会社勤めで品質管理をやっていた時代、現場の最前線で活躍する優れたスキルを持つ人が各製鉄所にいた。和鐵は、本社組織に働きかけ、各製鉄所で活躍している最優秀者を1名ずつ集め、東京本社で1週間缶詰で徹底的にしごき上げ、さらなる高みを目指す研修を毎年開催していた。様々な分野の教官が各所優秀者をさらに磨き上げる活動を「品質トップガン」と称していた。教官も生徒が現場現役の最優秀層なので気を許すと、すぐに逆襲がくる、教官にも良い刺激になっていた。そのトップガン育成チームを和鐵が率いていた。効果があったのか、時間の無駄遣いだったのかをわからないが面白かったことは間違いない。▶マーベリックも35年ぶりにトップガンに戻ってきた。はまらないわけではない。同じテイストの映画は「ロッキー・ザ・ファイナル」だ。でも「年寄りが頑張っちゃう映画ばかり見ているのは、年を取った証拠」と言われたいようにしたい。

1 直近の活動

- 4月7日(日) 幹事会
- 4月13日(土) **YES-Metals!**
- 4月14日(日) 「企業内技術士勉強会」(第14回目)
- 4月20日(土) 中国方面で面談
- 4月21日(日) 中部本部交流会
- 4月28日(日) 金属部会定例部会(4月分)

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 5月7日(火) 幹事会(ZOOM)
- 5月11日(土) 近畿本部三部会創立20周年記念式典(近畿本部)
- 5月12日(日) **YES-Metals!**・金属部会合同歓迎会(機械振興会館)
- 5月14日(土) 倫理研究会講演「金属部会企業内技術士勉強会について」(機械振興会館)
- 5月18日(土) 二次合格者説明会(機械振興会館) **YES-Metals!**対応(機械振興会館)
- 5月19日(日) 企業内技術士勉強会「 세미나講演再現」(機械振興会館)
- 5月21日(火) 部会長会議(機械振興会館)
- 5月26日(日) 定例部会(神奈川県担当)

3 部会四方山

▶ 65周年記念誌のオンライン配布はまだ続いているお手数ですが、ここからダウンロードしてほしい。

<https://xgf.nu/eHe5o>

PW : metals65

2024年5月30日期限

感想も届き始めている。関係者が総力を挙げてつくりあげた力作なので一言いただければ励みになる。

<https://forms.office.com/r/zk0CrLcJeM>

▶ 4月は、出会いの季節だ。大阪方面へのお出かけでの出会いは結構きつかった。4月17日は大阪で大学柔道部連中と夜中までの宴会、4月18日は熱処理セミナー終日、4月19日は技術者倫理セミナー終日。どちらもリアルで立ちっぱなしの講師で足が攣りそうになった。さらにきついのは19日が終わってからのたまたま大阪で揃った和鐵三兄弟の食べ会。長男の和鐵が一番スマートな団子3兄弟が食べ放題のしょぶしゃぶに命を掛けて挑んだ。凄まじい食欲であったが、和鐵の胃袋は崩壊寸前になった。4月20日、広島で中国本部の方の世話になりながらタタラ巡り。9時福山出発で帰りついたら20時前のハード旅行だった。大満足。で、21日の午前中は名古屋で昔の友達を呼び出して有名珈琲店でコーヒーをがぶ飲みし、午後は中部本部で交流会。宴会ののち、こだま号で新横浜まで爆睡しながら戻っ

た。何が一番きつかったかといえば兄弟の爆食。年々、爆食後のダメージ期間が長くなるような気がする。よく、セミナー前にしなかったものだ。年を取って自制心が出てきたとしておこう。▶戻ってからは、ずっと工事関係の打ち合わせが続き、ゴールデンウィークの11日間の大工事監督に突入した。我に帰ると、「俺は何をしているんだ」いう疑問も湧くが、そんな疑問も工事工程の前には雲散霧消する。コロナ前なら今頃は、奥さんとクルーズ船に乗ってゴールデンウィークの船旅を楽しんでいた。クルーズ旅行も3度目あたりから過ごし方もわかってきて、ガツガツ動き回らなくても楽しいバカンスが楽しめるようになった。会社を卒業したら悠々自適のエンジョイライフを過ごしているはずだった。卒業後2年間はコロナで自宅蟄居生活を楽しんだ。本の原稿も2年間で6冊書いて、4冊出版し、残り2冊は今年出す。そんな素晴らしい隠遁生活をエンジョイしている・・・はずが、毎日、防塵マスクに全身防護服を着て、工事立ち合いしている。自分で設計した幅3メートル長さ12メートルの熱処理炉の高機能化工事を指揮している。ドンガラだけになった炉の前でGW中に本当に計画通り生まれ変われるかドキドキものだ。なんでこんなことをしているのか自分でもわからない。考える暇もなく予算を取ってしまった20件の案件を一人で回している。▶これは夢か現か、時々わからなくなるが、工事業者の「また問題が出ました」の電話で工事現場に飛んでいく毎日が続いているので現実なのだろう。しかし、やはり夢か。製鉄所に入ってから新人6年間と全くおんなじ事をしている。独立時「技術コンサルや顧問になって、企業を指導する」というぼんやりした夢があったが、いつの間にか「24時間戦えますか（働けますか、ではありません）」のリゲインモードに戻っている。正直、中学生に戻ってやり直しをしているような気分だ。これでは時々見る「実は大学で単位が取れなくて卒業できていない」とか「やり残した仕事の実はたくさんあって帰れない」という悪夢と変わらない。これが技術士の仕事かどうかはわからない。しかし、技術士が一人中小企業に入り込むとここまでできるという証明をするのも、独立技術士を経て企業内技術士に舞い戻った技術士の務めかもしれないと思っている。▶いろんな事をする時間がなくなるという。しかし、技術士会も、執筆も、セミナー講師も続けながら企業に貢献するのもまたよしとしようと自分に言い聞かせている。歳を考えると夢中に過ごしていると歳なんて関係なくなってくるような気がしてきた。現場が性に合ってるのかもしれない。

5 和鐵管見32

▶歯が欠けた。不吉な予感がした。前歯の差し歯が食事中にぼろっと抜けた。鏡を見ると歯抜けジジイがしかめ面をしている。これではいけない。思い起こせば、この差し歯は不吉な因縁を持つ。生の歯は、2013年のパリ行きのエールフランスの夕食で出たフランスパンを齧った時に硬いパンに負けた。おかげでパリでは歯抜けジジイで通した。帰国後会社の歯医者さんが修復してくれた。▶今回はその歯が10年ぶりに抜けた。不吉極まりない。単身赴任の海老名では知り合いの歯医者もない。従ってネット情報しか頼れるものがない。一軒目に予約したところは5月7日まで予約で埋まっているという。とりあえずここで予約したが、ゴールデンウィークの工事立ち合いの間ずっと歯抜けジジイでは元気も出ない。そこで思い直して駅前大きなショッピングモールの中にある19時まで診察してくれる

歯科医に連絡すると、今日でもOKだと言われた。先約はキャンセルしてこの歯科病院に行った。不吉な予感の物語はここから始まる。▶「いらっしゃいませ、おじさま。どこがお悪いのでしょうか？」受付に若い看護師が四人座っていて誰に声をかけようか迷っていた和鐵は、相手が声をかけてくれて緊張が解けた。（俺のこと、おじさまだって。ジジイでなくよかった）「前の差し歯が取れたんです。18時半に予約したものです」「問診票を書かれたらすぐに見ますよ」（あれ、サービスいいな）すぐに予備診察室に通され、レントゲンを撮られた。「痛くありませんか？」「え？レントゲンって当たったら痛いんですか？」「いえ歯のことです」完全にヒヒジジイモードになっている。すぐに処置室に通された。部屋が11もあり、11番目だ。「一番奥の部屋ですのでゆっくり歩いてきてください」「じゃあそこで待てばいいんですね」「いえ、私の方が先に到着します」ゆっくりと言われたが、そう言われれば急ぎたくなるのが性分だ。全力の早歩きで11番目に飛び込んだ。息の荒い看護師さんが待っていた。和鐵が全速で駆け出したので相手も急いだんだろう。実は部屋の後ろが全て繋がっていてお医者さんや看護師さんがどの部屋にも行き来できる構造になっているようだ。うまくできている。「すぐに先生がいらっしゃいます」女医さんがすぐにやってきた。「どうしたの？」「歯が抜けました」「まあ、歳だからね」「いえ、差し歯が抜けたんです」手帳の中から抜けた歯を取り出して渡した。「あら、これがあれば差し込めるかもしれないわ。ちょっと見させて。うん、セメントで固めて埋め込みましょう」言葉だけ聞けばまるで土木作業だ。あつというまに抜けた歯は元の位置に修復された。「今度取れたら作り直しよ。はい今日はここまで。あとの処置は看護師さんにお任せするわ」ここから試練が始まった。▶「看護師です。はい、あーんしてお口の中を見せてね」まるで幼稚園児をあやすような口ぶりだ。悪い気はしない。「あーん」「よくできました。今から歯と歯茎を調べるからね。悪いところを見つめますよ。C3は2、C4は・・・あれこれなんだ」「どれどれ」他の看護師が寄ってくる気配。「これは・・・被せで決まりっす」ちょっと言葉遣いが荒い。その後もふたりでわいわい言いながら和鐵の口の中を覗きこむ。悪い気はしない。残念なことは、口周りだけ露出する布が顔全体にかけられているため、近寄る顔は見えない。声だけ近寄ってくる。▶看護師が和鐵に優しくささやいた。「和鐵さんは痛いことは嫌い？」「いえ大丈夫だと思います」「じゃあ、ちょっと痛いから。痛かったら左手をあげてね」とたんに、歯茎と歯の間に針がぶすりと差し込まれた。あまりの突然の痛みに「ウギョエ」と言葉にならない悲鳴をあげる。左手はしっかりジーパンを握りしめている。「3。4。4。3健全」針が容赦なく差し込まれていく。「大丈夫？麻酔かけましょうか？」「なんのこれしき」「じゃあ続けるね」「3、4。うわーあものすごく入る。見てみて！」「先輩、11ってすごくないっすか」「すごいよ、これ」和鐵の歯茎で遊ばないでほしい。口の中は麻酔はしなかったのに歯茎と歯の間にはいる針の痛みは相当なものだ。▶やがて検査が終わって布がとられた。看護師が後ろからチェックシートを目の前に示し、「この3というのは歯茎の深さが3ミリという意味よ。半分くらい3を超えているので歯槽膿漏だらけってことね」「え、そうなんですか？」「まあ和鐵さんのお年なら歯槽膿漏でなくても骨が下がっていくので大きな数字になるのよ」なんだか、講義を聞いているような調子で説明する。「ていうことは別に治療しなくてもいいんですよね」「まあそうね。不思議なことに虫歯は一本も見つけれなかったし、今すぐ治

療の必要はないわ。でも、先生からの伝言で『次回は歯石をとる』ことになっているので受診日を受付で決めましょう」「わかりました」「それで、その後なんだけど・・・虫歯はないけど、ところどころ気になるところがあるの。通ってこられる?」「まあ、会社が終わった18時半くらいなら通えます」「まあ嬉しい! 私たちと一緒に悪いところをやっつけましょう」悪い気はしない。▶というか、とてもいい気分だ。あのグリグリの痛みを耐えた。冷や汗も引いた。痛みの後に優しく声をかけられると、なんだかとても爽やかな気分になる。先ほどまで、「まだいける?」「大丈夫」「行きますよ」「ヒョエー」の繰り返しもなんだかいい思い出になる。「さあ、受付で次回の予約をしてね」▶もう受付には患者が誰もいない。まだ四人も座っている看護師の一人がすぐ手招く。「次回の予定を決めましょうね。えっと、和鐵さんはお昼の時間がいいかしら?」「いえ、働いているのでウイークデーは18時以降でしか無理です」「あらそうなの。大変ですね。じゃあ、最短では5月5日はどうかしら?」「その日は工事の立ち合いで無理です」「そうなの。じゃあ、11日の土曜日は?」「近畿本部の20周年記念で大阪に行ってます」「12日は?」「新人歓迎会で東京です」「ふうん、じゃあ14日の18時半からは?」「東京で技術者倫理研究会で講演してる最中です」「あら、お年の割にはおいそがしのね。では15日は?」「あ! その日は空いてます!」「やったあ。じゃあ15日に私たちがお待ちしています」「わかりました。今日は歯を入れてくれてありがとう」「絶対来てね。さっき入れたスマホのアプリにも予定が入っているから忘れないでね」「わかりました」「お大事に」集まってきた看護師さんたちが一斉に手を振る。悪い気はしない。▶不吉な予感しかない。歯石を取ったあともこの調子で次の予定が入り、定期的に「ヒョエー」を受けにこの病院に通い、挙句はインプラントやなんやら高額商品に手を出す予感しかない。でも、魅入られたように歯科病院に通い続ける、そんな楽しい、あ、いい間違った、暗い未来が脳裏を掠めた。悪い病院に当たってしまった。でも悪い気はしない。

部会長便り第35号

1 直近の活動

5月7日(火) 幹事会 (ZOOM) <<夕方で混乱させてしまった

5月11日(土) 近畿本部三部会創立20周年記念式典 (近畿本部)

<<<毎日新聞の元主筆とのパネルディスカッションは面白かった。久しぶりの大阪弁だったので言いたい放題のびのび語らせてもらった。金属部会内での借りてきた猫状態とは大違いでした。

5月12日(日) YES-Metals!・金属部会合同歓迎会 (機械振興会館)

<<<リアルでは迎える側のテンションにすぐ慣れてくれていて助かった。

5月14日(土)倫理研究会講演「金属部会企業内技術士勉強会と技術者倫理について」 (機械振興会館)

<<<ほとんど、「異端審問会」へ呼び出された気分に参加。講演の最初にマジックをやったのが良くなかったのか……。 「倫理とは人の心を操るわざ」のテロップから立て続けに異例演出を繰り出した。最後に「僕たちは理論をやっているのだが、田中君のは絵ばっかりだね」と言われてしまった。まあ「それでも地球は回っている」とつぶやく必要がなかったのだけが救いか。

5月18日(土) 二次合格者説明会 (機械振興会館) YES-Metals!対応 (機械振興会館)

<<<YES-Metals!と中原君が大活躍したそうで嬉しいかぎり。

5月19日(日) 企業内技術士勉強会「 세미나講演再現」 (機械振興会館)

<<<気分が変わって「異端……」の講演を再現した

5月21日(火) 部会長会議 (機械振興会館)

<<<司会をさせられたので、口を封じられてしんどかった。自分の思っていることが言えないまま「では、次の議題は……」と進行した自分を褒めてやりたい。その分、あとの宴会で飲み過ぎ、確かに海老名行きの電車に乗ったはずが、目が覚めると新宿行きに変わっていた。この電車マジックは未だに謎だ。

5月26日(日) 定例部会 (神奈川県担当)

<<<山下公園前のビルで会合。このあたりは、和鐵にとってはアミューズメントランド。昔、千葉で室長や工場長をしていたとき、車を仕立ててアクアラインを通り、ここまで来て中華街で暑気払いや忘年会をやっていた。新人君も連れてくると大喜びのエリア。和鐵の大好きな心のオアシス「逃げ恥」の舞台でもあり、象の鼻公園なんて看板を見ただけで卒倒しそうになった。なんでオアシスかということ、この放送があった頃、インドに技術指導に行っており、夜の娯楽は「逃げ恥」を見ることだけ。ホテルの外なんて危なくて出れない。人にぶつかるだけじゃなく、野良牛にぶつかる危険性があるので出られなかった。インドの田舎はそんな感じ。だから、象の鼻と聞くとインドのホテル(部屋は何部屋もあり馬鹿でかい部屋でしたが)のほろ苦い夜を思い出す。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 6月1日(土) JAXA見学会
- 6月2日(日) 幹事会 (ZOOM)
- 6月13日(木) 総会 (名誉会員2名、会長表彰2名爆誕)
- 6月16日(日) 企業内技術士勉強会「櫻井君講義」 (ZOOM)
- 6月23日(日) 定例部会・役員会、お祝い会

3 部会四方山

▶ 65周年記念誌のオンライン配布は5月30日で終わりました。

感想も届き始めている。関係者が総力を挙げてつくりあげた力作なので一言いただければ励みになる。

<https://forms.office.com/r/zk0CrLcJeM>

▶ 部会活動で何よりも嬉しいのは、新合格者歓迎会の際、**YES-Metals!**の連中がずらっと揃い踏みをしたことだ。「オンラインばかりの**YES-Metals!**なんか見たくない」と暴言を吐いていた和鐵に、**YES-Metals!**幹事団はリアル参加で答えてくれた。作ったのは和鐵と笹口さんと浦部さんと阿部くんだが、その後の**YES-Metals!**はやはり彼らが支えてくれていたんだと実感した。コロナも終わったんだ。またリアル会合の**YES-Metals!**が始まる。もうロートルのジジイも出番は終わったと実感した。▶ 6月号の金属学会誌まてりあには元東京藝大の桐野先生が登場する。渡邊、田中に続く第三の刺客だ。先日、用事があるまてりあ事務局に電話した時のことだ。「売上げにご協力いただきありがとうございます」と言われた。なんのこっちゃと聞くと、どうも事務局に記事の別刷の購入希望が何件も入っているそうだ。2月にもあったが、4月に入ると二つの記事が欲しいと注文が来ているらしい。まてりあでは異例らしい。渡邊さんの2月の記事は常識があったが、和鐵の4月の記事は言いたい放題だった。「技術士を取ったら、千客万来？冗談じゃない、そんな訳ないだろう」から記事は始まる。本音と和鐵の偏見の塊のような記事だった。これを欲しがる人がいるそうだ。6月号の桐野先生の話も強烈なので記事要請が楽しみだ。8月は藤間くん、10月は中部の橋本君、12月は金属部会の切り札の山崎一正さんと、強烈個性の打順が続く。そのうち、金属学会のメンバーを一人残らず技術士試験を受けて金属部会のメンバになってもらう。そうすると、400人が4000人を超えてくる。まだまだ鉄鋼協会や大学、なんとか協会など手付かずの狩場がいくらでもある。いくら相手が大きくても、技術士の国家称号を名乗れるのは我々金属部会だ。天下取りの道のりはまだ踏み出したばかりだ。しかし、金属部会の皆の個性と頑張り、天下布武の旗印のもと、金属分野の日本統一も夢ではない・・・、金属狩りを本気で行う、なんて白昼夢を見たような気がした。

4 和鐵管見33

▶自分を褒めてやりたい。歯が欠けて不吉な予感がした先月以降、二度目の通院に向かった。ここで、看護師さんの「私たちと一緒に悪い歯をやっつけましょう」との甘い言葉に乗せられるとずるずるとインプラントまで行ってしまい大散財になるところだった。そこを踏みとどまった。次回の予約を誘う看護師さんを振り切って「次に歯が抜けた時にまた会おうぜ」とハードボイルドなセリフを吐いて断った。誘いに乗らなかった自分を見直した。単にお金もったいないだけだったかもしれないが。▶歯の思い出は色々ある。一番最初の思い出は、中学三年生の時、なんと大阪市の歯の最優秀健康生徒に選ばれたことだ。十万人の頂点に立った和鐵は、市役所での表彰式の後、表彰状と抱え切れないほどの副賞を持って駅から歩いた。でもこの話は鬼門である。歯の治療に行って女医さんにこの話をした時のことである。「昔はどうだったか知りませんが、今はもうボロボロよ。はい、お口を開けて」ギューン。ギョエ。なぜ、皆は和鐵の過去の甘酸っぱい思い出をドリルで打ち砕こうとするのだろう。▶ゴールデンウィークが終わり、普通の生活が始まっている。出版社から5冊の本の出版を厳命され寸暇を惜しんで執筆し、土日はほとんど技術士関係で人と会い、その度に飲み会をし、大阪とんぼ帰り、なんやらの講師を夕刻から東京でさせられるのが普通の生活ならば、である。まあ、ウィークデーは会社に通り普通の生活をして体調を回復させている。月末は、熱処理技術協会の春季講演大会にリアル参加していた。もちろん宴会付きだ。人と会っていると、コロナが本当に終わったんだと実感する。昔の仲間があちこちの大学の教授をやっているのも微笑ましい。和鐵には絶対に無理だ。以前、九州の大学で教えていた時、前列の体育会系の連中がバタツと寝ていた。和鐵を呼んでくれた昔の仲間の教授が資料で頭を張ったおすとやおら顔を起こした。この時から絶対に学生には教えまいと誓った。▶一方、有料セミナーにくる会社員や技術者は、金を払ってきているので一生懸命聞いてくれる。こっちの方がやりがいがある。新入社員も鬼門だ。和鐵がまだ製鉄所にいた頃、新入社員に講義をさせられていた。その時も、100人以上が研修センタに集まって和鐵が講義をしていた。しかし、3分の1以上が寝てはいないが下を向いている。何か内職をしている。自分も経験があるのでピンときた。明日のTOEIC試験の準備をしているのだった。企業では頭を張ったおすと流石に和鐵でも暴力沙汰で人事に怒られる。やおら講義を中断した。今までうるさかった和鐵が黙ってしまったので、下を向いている連中も皆、顔を上げた。「今、下向いていたやつは手を上げんかい。後ろの人材開発のにいちゃんがチェック入れてくれるから」半分まで上げた手を下ろそうとする。「一旦上げた手はおろすな、わかったか」内職していた連中はビビりまくっている。「よし、全員手を上げろ。背伸びせいや。研修で疲れたやろ」▶新人を教えていると、結構立ってから、寄ってきて告白する奴らが時々現れる。「今、気がついたのですが、あの時の和鐵さんですよね」こういうのは結構嬉しい。ましてや告白して来たのが大工場の工場長とか室長でバリバリ働いている連中だ。教え子が立派になっているろんなところで活躍するのは何度経験してもうれしいものだ。▶和鐵のTOEICの点数など最近の子の半分にも満たない。ある年齢以上になると受けなくても良くなる仕組みだ。最後の試験の最中、聞き取りの時寝てしまい、文章を読む時、「このボブはこんな電話対応で就職できたんだろうか」と気になって仕方なくなる。で、生涯成績はとんでもない点数だ。まあ、これでもインドに一人で行って教えてき、東南アジア鉄鋼協会の一行に英語で講義し、海外からのお客の相手をし、UOのプロジェクトをPPMを英語でこなしていた。聞き取れないとか喋れないとかは全然和鐵にとって些細な問題に過ぎない。▶今月の記事も、学会から戻ってきてゆっくりした気分の中で打っている。外は大雨なので、走りにも行けない。読まされる人はたまったもんじゃないだろう。では、ここらでお開きにしましょう。